

大腸肛門病センター高野病院

Coloproctology Center Takano Hospital

川島浩孝*1・柳澤潤*2

KAWASHIMA Hirotaka, YANAGISAWA Jun

所在地 熊本県熊本市
建築主 社会医療法人社団高野会
設計者 (株)共同建築設計事務所*1
(株)コンテンポラリーズ*2
施工者 松尾・岩永特定建設工事共同企業体
+三建設備工業



大腸肛門病センター高野病院は1982年に熊本市内に開院した大腸肛門疾患の専門病院である。2013年8月、くまもとアートポリス（以下KAP）事業90番目、病院としては初めての試みとしてプロポーザルコンペにて選定された。周辺を多くの文教施設で囲まれた緑豊かな場所に移転し、病床数166（一般100床、地域包括ケア46床、緩和ケア20床）、内視鏡センターや患者支援センター、総合検診センターなどを新たに加え、2016年4月に起こった熊本大地震の危機を乗り越え2017年8月に竣工を迎えた。

KAPのプロポーザルコンペには「自然に開き、人と和す」という大きなテーマがあり、私たち設計JVチームは、敷地の固有性をどう病院建築に活かすか、患者や家族との親密かつ丁寧な対応をどのような空間に落とし込めるか、そしてアートポリスという公共性の高い事業にどう応えるかという点に重点をおき設計を進めた。敷地の特徴として周辺が文教施設で囲まれているという他、隣地には駐車場、大型商

業施設、他の病院と箱形の大型建築が整然と並んでいる。このような無機質になりがちな場所に対して、1階から3階までを層のブロックでずらし、上階の病棟階では病室を外周に沿って、襲を形成するように連続的に配置した。私たちの提案の骨子である患者に最も最適な環境、つまり病室の環境をより良いものにするために「個室の多床室」を採用し、それを4、5階病棟階の外観に全面的に展開した。4、5階の病棟階から見る風景は各病床（ベッド）ごとに異なり、一つとして同じ風景はない。患者のみならず、医師や看護師も阿蘇外輪山を遠望する166の風景を共有できる。様々なスケールの庭（ガーデン）やコーナー、光庭が内外に渡り立体的に配置されていることもこうした風景をより豊かにしている。公共性という点では内外の庭や談話コーナー以外でも、2階の患者支援センターなどは外部の広いテラスとともに一般の来館者やイベントなどにも利用可能であり、今後さらに地域に開かれる可能性の高い場所となっている。